

# 第13回（平成28年）協会活動有功賞受賞者

協会活動有功賞は、当協会の運営、事業などの活動で顕著な貢献のあった者を表彰することにより、会員の協会活動に対する参加意欲の増大を促すとともに、協会活動の更なる発展を図ることを目的として創設されたものです。

あかさわ としゆき  
赤澤 敏之 氏（北海道立総合研究機構）

## 東北海道支部北海道地区のセラミックス事業の産学官連携の促進



赤澤敏之氏は、永年にわたり日本セラミックス協会東北海道支部および同協会生体関連材料部会の幹事を努めた。また同協会東北海道支部が開催する多数の学会やセミナー等の実行委員として、これら行事の円滑な運営に貢献した。とりわけ北海道地区の活動において産官学の連携を促進した功績は大である。セミナーの開催を始め、窯業関係者のセラミックス交流会へ協力支援、医歯工研究者や医師の北海道再生医療・医用工学研究会の設立、地場（鉱物・生物）資源の高度利活用、産業廃棄物を有効利用したセラミックス、バイオセラミックスの改質・利用技術の開発など、地場産業の育成に貢献した。このうちヒトの歯を微粉碎、酸処理して生成する顆粒は、吸収性・骨誘導性材料として約100症例の患者に臨床応用され、日本・米国特許が査定、国際会議・論文で公表、歯科医師用英語版テキストにも掲載された。以上の活動により同協会東北海道支部活動の活性化に大きく貢献したことは、協会活動有功賞に値するものとしてここに推薦する。

**略 歴** 昭和59年北大院工学研究科修士課程修了。同年道立工試研究職員、同62年阪大産研客員研究員、平成2年北大院歯学研究科研究員、同11年工学博士、同14年道立工試材料化学科長、同22年道総研高分子・セラミックス材料G研究主幹、同26年北見工大非常勤講師、同28年道総研環境エネルギー部長、現在に至る。

いたたに きよし  
板谷 清司 氏（上智大学）

## セラミックス大学の長年にわたる企画運営および活性化に対する貢献



板谷清司氏は、平成8年から現在までセプロ小委員会委員を務め、そのうち同21年度から22年度まではセプロ小委員会の主査を務め、セラミックス大学の企画・運営に携わってきた。具体的に講義スケジュールの調整、講師・テーマの選定等の運営全般、上智大会場の確保・運営である。

セラミックス大学は、セラミックスの研究や開発などに従事されて間もない企業の方や学生などの入門者向けの講習会であり、セラミックス化学の基礎、合成法の基礎とノウハウ、結晶構造と物性、用途・応用などについて、それぞれの専門分野での豊富な経験を持つ大学教員や企業の研究者・技術者が7日間で全21回の講義の中でエッセンスを解説する。同氏はセラミックス大学を実施するための企画や運営に20年間の長きにわたり携わってきた。ここ数年セラミックス大学の受講者は年々増加しており、これも同氏によるセラミックス大学活性化への貢献によるところが非常に大きいと言える。以上のように、協会の推進するセラミックスに関する教育啓発活動およびその活性化に大きく貢献した。よって協会活動有功賞に値するものとしてここに推薦する。

**略 歴** 昭和54年上智大学大学院理工学研究科博士前期課程修了。同54年同大学理工学部助手、平成7年同大学理工学部専任講師、同9年同大学理工学部助教授、同17年同大学理工学部教授、工学博士。

はしもと おんじ  
橋本 文寿 氏（アジレント・テクノロジー（株））

## 化学分析方法規格および標準物質作製に係る標準化事業に対する貢献



橋本文寿氏は平成17年に（株）堀場製作所に入社以来、ICP発光分光分析法等の湿式分析や蛍光X線分析、電子顕微鏡等の構造解析など幅広くセラミックスの特性を評価するための分析・解析業務に携わり、各種セラミックス製品の品質向上のための分析技術の開発にも努めてきた。

日本セラミックス協会 資源・環境関連材料部会 化学分析分科会（現標準化委員会 化学分析小委員会）には同19年より参加し、培ってきた高度の化学分析技術を擁して3件の協会規格（JCRS）の作成ならびに共同実験に参画して、ファインセラミックス材料の化学分析技術の標準化に大きな役割を果たした。また、同26年には現化学分析小委員会の幹事、同28年は主査として更なる発展に尽力されている。また、窒化けい素微粉末および炭化けい素微粉末の協会認証標準物質作製のための共同実験に参画して信頼性の高い分析値を報告し、認証標準物質の開発と供給に大いに貢献した。以上のように、同氏は約10年間の長きにわたる活動を通じて、協会が推進する標準化事業（化学分析方法規格の標準化および標準物質の開発と供給）の推進に対して顕著な貢献をなしており、協会活動有功賞に値するものとして推薦する。

**略 歴** 平成11年東邦大学理学部化学科卒業。同年東邦化研（株）に入社、その後、同17～27年（株）堀場製作所で勤務、同27年～アジレント・テクノロジー（株）、主に分析技術者として従事、現在に至る。